



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一八七号）

秋分 しゅうぶん

九月二十三日

十三夜

秋は月。

今年、秋の気配を早く感じるのは、気温だけでなく、十五夜、中秋の名月をすでに九月八日に迎えたせいもあるのでしょうか。翌九日には大きなスーパームーンが夜空に輝くのも望め、すでに名月を楽しんだ九月です。

けれど、日本には「二度の月」と呼ばれ、旧暦八月十五日の十五夜に次いで美しいといわれる十三夜じゅうさんやがあります。こちらは旧暦九月十三日、今年十月六日になります。地域によっては、十五夜と十三夜の両方を月見しないと、「片見月かたみつき」といって災いがくると忌まれました。今年是天候が心配された中、十五夜を望めましたので、ぜひとも十三夜も見たいものです。

今年の十三夜、十月六日は、じつは内宮の別宮、月読宮の遷御せんごにあたっています。月読宮は天照大神あまてらすおおかみの弟神、月読尊がご祭神。神名の通り、月神である月読宮の遷御の夜に、十三夜の名月が輝くことになるとは、すばらしいめぐり合わせです。

神名の月を読むとは、月の満ち欠けを知る、つまり暦の「月(month)」を意味します。満ち欠けを約三十日周期で繰り返す夜空の月は、暦でもあったわけです。また、十三夜を愛するのは中国にはなく、日本固有のもの。ちようど食べごろとなる栗や豆にちなみ「栗名月」「豆名月」とも呼ばれることから、秋の収穫物を名月に供え、収穫を祈る習慣から生まれたとも考えられています。

そして、今秋はもう一度、十三夜が巡ってきます。旧暦では季節と日付を合わせるため三年に一度程度特別に付け加える閏月うるふづきが設けられます。今年も九月閏月があることから、十一月五日も十三夜になるのです。

この秋は、ことのほか月を愛でる年となりそうです。

文 千種清美

